

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	甲	第	号
------	---	---	---	---

氏 名 池田 脩太

論 文 題 目

Preoperative sarcopenia and malnutrition are correlated with poor long-term survival after endovascular abdominal aortic aneurysm repair

(術前サルコペニアと低栄養の腹部大動脈瘤ステントグラフト内挿術後長期生存率との関連)

論文審査担当者 名古屋大学教授

主 査 委員 碓氷章彦
名古屋大学教授

委員 室原豊明
名古屋大学教授

委員 長縄慎二
名古屋大学教授

指導教授 古森公浩

論文審査の結果の要旨

今回、腹部大動脈瘤(AAA)に対するステントグラフト内挿術(EVAR)の長期成績を後ろ向きに検討し、EVAR 術後生存率に術前のサルコペニアと低栄養が関連していることがわかった。EVAR は従来の人工血管置換術と比較し低侵襲であり、対象患者がより高齢で全身状態が不良であることが多い。そのためプロペンシティスコアマッチングを行ったが同様の結果を得ることができた。また、サルコペニアと低栄養は片方だけ満たすだけでは生存率への影響は少なく、両方を満たすことで生存率が悪くなるという結果であった。EVAR は低侵襲治療ではあるが、その中でもサルコペニアと低栄養を共に満たす患者に対する治療適応については慎重に検討が必要と思われた。

本研究に対し、以下の点を議論した。

1. EVAR は低侵襲であるため、高リスク患者に対しても比較的安全に施行できる可能性が高いため高リスクだからと言って手術適応から全て外すというのは現実的ではない。ただ、一般的に手術適応とする瘤径は 50mm であるが、これを 55mm や 60mm まで引き上げるといことは考慮されると思われる。また、手術自体を行うべきでないと言えるほどの厳しい指標については今後検討を行っていきたい。
2. 腸腰筋面積の検討については報告によって様々であり一定の見解がない。身長により補正する方法もとられることが多い。今回は栄養状態の指標に BMI を含む GNRI を使用したため身長による補正は行わなかった。また、筋肉の性質についても検討していないため、筋肉内の CT 値なども指標に加えるとよいと思われる。
3. 悪性疾患は特にサルコペニア・低栄養に関連する可能性があり、特にアクティブな悪性疾患については特に顕著と思われる。しかし、EVAR の適応としてはある程度の予後が期待される患者であるため、AAA がよほど大きくなければアクティブな担癌患者については今回検討した患者の手術適応から外されていたと思われる。ただ、悪性疾患の影響については重要と思われるため今後検討を追加していきたい。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第	号	氏 名	池田 脩太
試験担当者	主査 碓氷章彦		副査 ₁ 室原豊明	
	副査 ₂ 長縄慎二		指導教授 古森公浩	
(試験の結果の要旨)				
<p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 高リスク患者に対する手術適応について2. 腸腰筋断面積の評価方法について3. 悪性疾患のサルコペニア・低栄養との関連 <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、血管外科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				